羅府新報

(6)　2019年（平成31年）　4月25日（木曜日）

南加キリスト教教会連合

「すると風はやみ、すっかり凪になった」

井下　泰文

聖書に、イエス様の言葉に従った弟子たちが嵐に見舞われてしまう記事があります。

イエス様は湖で人々を教えた後、弟子たちに「向こう岸に渡ろう」と呼びかけました。皆を乗せた舟がしばらく進むと、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになりました。残念なことに弟子たちは、イエス様の言葉に従ったのに災難に遭ったのです。しかもその時、言い出しっぺのイエス様は、舟の後ろの方で枕をして眠っておられました。

弟子たちはイエス様を起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言いました。彼らの言葉を聞いて、イエス様はどうなさったか。眠りを妨げた弟子たちを叱りつけたのではなく、起き上がって、風を叱り、湖に「黙れ。静まれ」と言われました。すると風はやみ、すっかり凪になったそうです。舟が水浸しになるほどの波風が、二言で静まりました。そんなことが起こるのでしょうか。疑うことは簡単ですが、湖を従わせた方はどのような方か、言葉で従わせるとはどのようなことか思い巡らしましょう。

私たちが目にし、手で触れられる物は全て、神が言葉によって造られたと聖書に記されています。風や湖を言葉で静まらせたということは、イエス様が創造にかかわったことをにおわせています。その権威をもって地上に来られた神の子であることを教えるため、強いて弟子たちに湖を渡らせたのでしょう。

イエス様は弟子たちに問いました。「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」まさか信仰の有無を問われるとは思わなかったでしょう。弟子たちは信じていたから従いました。従ったら嵐に見舞われました。「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」どうやら弟子たちは、イエス様がどのような方であるかはっきりしないまま従っていたようです。イエス様はこの時、あなたたちだけで向こう岸に行きなさい、と放り出したのではありません。「向こう岸に渡ろう」と言われた方は、その先で何が起こるか知っておられ、それによって弟子たちの問いを引き出しました。

弟子たちも嵐を経験した後、イエス様について深く考え始めました。ですから今はっきりと分からなくても、決して遅くはありません。これからイエス様を体験できることはとてもすばらしいことです。このお方は、信じて向き合う者と共におられます。大事なのは、このお方から目を離さずにいることです。ときに人生に嵐が巻き起こることもあるでしょう。その時は、大声で助けを求めましょう。私たちの側には、嵐を静める権威をもつ方がおられます。神の憐れみによってそれに気づかされる時、他では与えられない平安に満たされます。

（ウエストコビナキリスト教会）